九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

TSS開始時のコマンド自動実行機能について：PROFILEプロシジャの使い方

末永，正
九州大学大型計算機センター研究開発部

https://doi.org/10.15017/1474924

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 15 (1), pp.11-12, 1982-03-10. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

TSS開始時のコマンド自動実行機能について
－PROFILEプロシジャの使い方－

末永　正*

九州大学大型計算機センターにおけるOS IV/F4のTSSでは，TSSセション開設時に自動的に実行するEXECプロシジャ機能がある．具体的には，PROFILE・CLISTという名前でコマンドプロシジャ用の順データセットを作成しておけば，そのコマンドプロシジャがLOGON時に自動的に実行するものである．この機能は，それ自身とりたてて言及することではないが，使い方によっては比較的便利な機能であるので改めていくつかの利用例を紹介する．

例１）独自のコマンドプロシジャを直接呼出し形式にする．

```
LIST  PRØFILE.CLIST
 F1234.PRØFILE.CLIST
00010 PRØC 0
00020 ALLØCATE F(SYSPRØC) DA(CMDPRØC.CLIST 'QS.CMDPRØC') SHR REUSE
00030 EXIT
 END ØF DATA
READY
```

（注意）データセットを連結する場合には，その属性（DSORG，RECFM，LRECL，BLKSIZE）が同じでなければならない．これらの情報はLISTDSコマンドで表示される．なお，同様なことはCHAINPコマンドによっても可能であるが，上記の条件を守る限り処理時間の点で本例の方が優っている．

例２）端末の標準行サイズの変更とセション終了時に課金情報を出力するようにする．この指定は，バッチジョブ配下［１］では無意味であるばかりでなくエラーとなるので，TSS配下でのみ有効となるようにする．

```
LIST  PRØFILE.CLIST
 F1234.PRØFILE.CLIST
00010 PRØC 0
00020 IF &SYSENV=&STR(FØRE) THEN DØ
00030                              TERMINAL  LINESIZE(136)
00040                              CALLM     CHARGINF
00050                             END
00060 EXIT
 END ØF DATA
READY
```

例３）端末のコード系をJIS7コード（カナ文字用）に設定する．

```
LIST  PRØFILE.CLIST
 F1234.PRØFILE.CLIST
00010 PRØC 0
00020 IF &SYSENV=&STR(FØRE) THEN DØ
00030                              TERMINAL  NØTRAN
00040                              SETCØDE   INTERNAL(KANA)
00050                             END
00060 EXIT
 END ØF DATA
READY
```

*九州大学大型計算機センター研究開発部

解　　説

例４）端末入出力メッセージを自動的にロギングし，作業履歴を蓄積する．

```
LIST  PRØFILE.CLIST
 F1234.PRØFILE.CLIST
00010 PRØC 0
00020 IF &SYSENV=&STR(FØRE) THEN DØ
00030                              ALLØC F(SYSTSLØG) DA(TSLØG.LIST) MØD
00040                              LØG   START
00050                             END
00060 EXIT
 END ØF DATA
READY
```

例５）セション開設時の記号パスワードだけでなく，疑似乱数による数字パスワードを設定する．

```
LIST  PRØFILE.CLIST
 F1234.PRØFILE.CLIST
00010 PRØC 0
00020 SET  &A=&SUBSTR(4,&SYSTIME)
00030 SET  &B=&SUBSTR(5,&SYSTIME)
00040 SET  &C=&SUBSTR(7,&SYSTIME)
00050 SET  &D=&SUBSTR(8,&SYSTIME)
00060 SET  &TIME=&STR(&A)&STR(&B)&STR(&C)&STR(&D)
00060 SET  &KEY=&B+&C+10-&D
00070 IF &SYSENV=&STR(FØRE) THEN DØ
00080              RDPS:WRITENR &TIME ENTER  PASSWØRD NØ. &STR(: )
00090              READ PASSWØRD
00100              IF  &PASSWØRD¬=&KEY THEN LØGØFF
00110                             END
00120 EXIT
 END ØF DATA
READY
```

（注意）本プロシジャは，その使用目的からPERMITコマンド［１］によって他のユーザから参照できないようにしておかなければ意味がない．また，作成次第では永久にLOGONできなくなる可能性もあるので万全の注意を払う必要がある．

参考文献

1. 末永　オペレーティングシステムOS Ⅳ／F4　E40について，九大大型計算センター広報，14，1，1981，59−68.